

ぬっくハウス 巣立ちインタビュー



ぬっくハウス入居時 18歳

10周年おめでとうございます！この10年間でみなさんに救われた人達は沢山います。ありがとうございます。私もその中の一人です。有難うございます！

私はみなさんのおかげで今、毎日元気に生きることができます。大変なことも学びの種にして少しずつ乗り越えていきます。

私にとってぬっくとは、一言で表すと「落ち着ける場所」です。ぬっくのみなさん（スタッフさん、ボラさん、コタンさん、事務局の人、弁護士のえらい人？）の気遣いや思いやりは、不变的なもので、いつもすぐそばで優しさをくれて、安心という温かさを感じることができます。私はそれが一番有難かったです。

ぬっくにいた時間を通して、私は私を受け入れられるようになりました。自己受容です。失敗しても、頑張れなくても、その時の自分をしっかりと理解して、認められるようになりました。どんな自分も大切にしたいと考えられるようになりました。人に嫌な思いをさせてしまったり、大切な人に拒絶されるような自分は、他者に迷惑をかけて、苦しめているから、いないほうがいいと、本気で考えていたこともあります。今はそんなふうには思わないです。はっきりと理由を言えませんが、自分の中に感謝と使命感が生まれたからかもしれません。

まず、ぬっくで生活がはじまって、少し今までよりも広い世界で、色々な人と出会い、自分は意外と普通の人なんじゃないかと、自分に対する否定的評価を疑うようになりました。少し余裕ができると周りを少しだけ見れるようになります。そこで、他者が自分に向けてくれている優しさに気付くことができ、頼るということを知りました。信じることが怖くなかったです。頼ったら、助けてくれる人がいることを知りました。

私は、悲しい気持ちも沢山経験しましたが、それがあって良かったと心から思います。人の優しさを知って、自分が前を向けたからです。私は、優しさを沢山頂いたので、それを知らない人達に、安心してもらえるような行動をします。優しさを微塵も感じられない人は、きっと誰よりもそれを必要としている人な気がします。困ってる人を助けたいです。でも、みんな困ってるかもしれません。なので、今はとにかく自分のまわりの人達を大切にしようと思います。笑顔で😊!!

長くなってしまいましたが、ぬっくは私に安心感と一人ではないという心強さを届けてくれました。私の人生に、ぬっくとの出会いは絶対に欠かせません。他のみんなもきっとそうだと思います。ぬっくは多くの人を救ってきた！本当にありがとうございました！

ご支援のお願い

ぬっく会員募集

現金・物品寄付

ぬっく応援会員

正会員 入会金 5,000円
年会費 5,000円

賛助会員 個人1口 3,000円
(年会費) 法人1口 10,000円

- 若者向けのもの
- お箸 •マグカップ
- お米 •お菓子等

毎月 1,000円～
月1回自動決済

入会金・会費・
ご寄付の
振込先

三菱UFJ銀行 梅田新道支店 普通預金 0206469
特定非営利活動法人子どもセンターぬっく
ゆうちょ銀行 ○九九店 当座預金 0208341
特定非営利活動法人子どもセンターぬっく

ぬっく事務局が
移転しました！

〒530-0047

大阪市北区西天満4丁目6番18号
アクセスビル6階 法律事務所つむぎ内

06-4792-7425



NPO法人 子どもセンター

ぬっく



News Letter Vol.19

2025年12月

理事ご挨拶

いつも子どもセンターぬっくを応援していただき、ありがとうございます。

ぬっくは、今年、設立10周年を迎えることができました。そして、11月1日には記念のシンポジウムを開催し、多くの方々にご参加いただくとともに、あたたかい励ましのお言葉やたくさんのご寄付をいただきました。ぬっく一同、これまで支えてくださった皆さま方に心から感謝しております。

10年の間、子どもシェルター「ぬっくハウス」開設→電話相談開設→自立援助ホーム「Re-Co」開設→自立援助ホーム「Ma-Co」開設と一步一步活動を広げてきました。振り返ると、山あり谷あり、手探り・体当たりの繰り返しで、なんと刺激的な毎日だったことかと思います。でも、その中で、子どもたちや活動の仲間、関係機関や支援してくださる方々と過ごした時間は、私たちにとってかけがえのないものとなっています。子どもたちが置かれた状況は厳しく、途方に暮れるような思いをすることがあるても、子どもたちが見せてくれるキラリとした瞬間と、たくさんの方々が子どもたちに思いを寄せてくださるということが、私たちの励みです。

一方、10年の活動を通じて、まだまだ子どもたちが住む場所が足りないということも痛感しています。自立援助ホームに入りたいという相談があるても、満員のために他の支援方法を探さざるを得ないことはしょっちゅうです。しっかりとご飯を食べ、あたたかい布団で安心して眠り、知識や文化、人とのつながりといった心の栄養もとることができます、そういう当たり前のことが子どもたちに保障されるよう、ぬっくは活動を続けてまいりますので、これからも皆さまのあたたかいご支援とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。

(理事 丹羽 有紀)

ぬっく活動カレンダー 2025.2 ~ 2025.9

2025.2.2 … 大阪若獅子ライオンズクラブ CN5周年記念式典において、ぬっくの活動について講話



2025.3.1 … 大阪弁護士会主催おおさか人権フェスタにブース出展

2025.3.27 … 大阪西ライオンズクラブ結成記念例会において、ぬっくの活動について講話

2025.9.27,28 … 子どもシェルター全国ネットワーク会議 in HYOGO に参加

2025年度ぬっく10周年記念 シンポジウムご報告

2025年11月1日に「ぬっく10周年記念シンポジウム～ぬっくが取り組む『困難の中にある子どもの声を聞く』支援について～」を大阪国際交流センターで開催しました。

会場には支援者や専門職のほか、子ども・若者支援に関心を持つ多くの方々が来場し、熱心に耳を傾けてくださいました。

玉野理事長らによるあいさつ、ぬっく活動報告の後、日本で初めて子どもシェルターを開設した社会福祉法人カリヨン子どもセンターの坪井節子弁護士と、子どもアドボカシー研究の第一人者である熊本学園大学の堀正嗣教授が登壇しました。

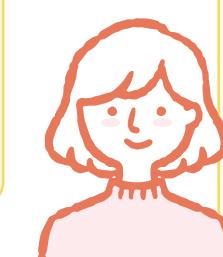
坪井さんは、長年にわたる子どもたちへの支援活動を振り返り、「弁護士は無力だと感じる時もあるが、とにかく手を離さず、周囲の支援者たちがタッグを組んで対応するチーム支援こそが重要だ」と強調。そして、「子どもたちの行く末をひたすら祈る気持ちを大切にしてきた」と語る姿勢に、多くの参加者が心を打たれました。

堀さんは、子どもの意見表明権を保障するための

参加した スタッフの感想



子どもシェルターの歴史を感じることができました。今日からまた気を引き締めて子どもたちと真摯に向き合っていこうと思いました。



スタッフとしての立場から日々悩んだり共に喜んだりする中での方のお話も、明日また子どもたちと向き合える勇気が持てる言葉をたくさん頂きました。

▼パネルディスカッションの様子



アドボカシーの重要性について講演。特に、子どもとの対話において「上から目線になっていないか」と支援者自身が絶えず問い合わせることの必要性を訴えました。この指摘は、多くの参加者にとって、それぞれの子どもたちとの接し方を見直す貴重な機会となったと思います。

第二部・パネルディスカッションにおいては坪井さん、堀さん、子ども担当弁護士（コタン）の末永貴寛さん、理事長の玉野が登壇し、コタンが現場で直面する課題について意見交換を行いました。テーマとなった課題はいずれも、支援者であれば誰もが共感できる場面設定でした。即座に明確な解決策を導くことはできませんでしたが、登壇者が対等な立場で意見交換し、子どもにとっての最善の支援を探求する姿勢は、まさにぬっくが日頃大切にしている「話し合いを基盤とした支援」そのものを体現していました。

ぬっくはこれからも、子どもたちが安心して過ごせる居場所を提供し、自立を支援します。ご参加くださった皆様、本当にありがとうございました。

(運営委員 M)

スタッフの声

「子どもが人生の主役であるように」

スタッフとして子ども達に関わる中で、子ども達からいろいろ学ばせてもらうことがあります。時に大人の理解の範疇を超える言動に右往左往することもあるのですが、そういう時にもまずは「この子は何を感じているんだろう」「どんな気持ちでいるのかな？」と子ども自身の気持ちに焦点を当てるようしています。

わたしたちスタッフは「自立援助ホーム」という枠組みの中で子どもと出会います。この枠があるからこそ、安心して子どもと出会えるのです。子どもにとっては長い人生の中のひと時を過ごす場ですが、ここでの経験がこれからにつながるといいな、自分の人生を生き抜くときの参考になればいいな、色々な大人に出会うことで肩の力を少し抜くきっかけになればいいな・・など思いながら、何でもない当たり前の毎日を支えています。

ちょっとした言葉の端々、小さなため息、廊下を

歩く足音・・いろんな姿から子ども達の揺れ動く気持ちを感じ取り、それでも淡々とした日々と一緒に過ごしていきたいと思っています。危なっかしい言動をハラハラ見守り、起きてもいいことを勝手に心配して大人が煮詰まる事もあります。それでも、こちらの気持ちちは一旦横に置き、いつも通りの会話を交わしているうちに、自然と「あんな・・実はな・・」と子どもの方から話してくれて、自分で解決の糸口を見つけています。そういう時は「うん、うん」と頷きながら心の中で（子ども達の力ってすごい！先回りしなくて良かった！）とほっと胸をなでおろしています。

子ども達が人生の主役として見ている景色に「Re-Co」の生活がどう映っているのかはわかりませんが、これからもどんなあなたでもOKだよ、何かあったら一緒に考えていこう！と、エールを送り続けたいと思っています。(スタッフ I)

たくさんのご支援
ありがとうございます！

応援会員は54名です
(2025年10月時点)

継続的なご支援に
感謝します



ご寄付等くださった方(敬称略、順不同) (2025.2.1~2025.9.30)

浦崎雅士、金井香苗、森太一、河内山淳子、奈良恵美里、甲斐直恵、内藤千賀、仲岡優子、曾我妹津子、河相武利、小林潤子、松原薰子、中村年子、岡本弘美、松井千恵子、宇田康子、小原修、大平喜美子、齋藤直美、中畠卓明、渡辺由美子、奥村健、黒田春恵、山口雅子、上川和子、郡山恵里子、池永明美、岡川裕子、長谷川民子、杉村徹、奥村由記、仁志川人代、泉薰、谷口哲也、今井孝直、長沼千絵、田中かすみ、中島章、鍋倉義明、河野強、渡邊国和、高間量子、鈴木資子、松本八千代、渡邊徹、岡本勝美、松本友子、中川雄太、齊藤正実、石津文乃、矢口敬子、椿本伸明、村上周、柚岡さくら、川本美佳、橘優里、沖亞紀、大井仁美、淨長寺・川上玄有、直の会・土居止戈代、チャリティショップめぐりもの・大野通子、てるうさファーム & キッチン・山地史高、千里寺・武田大信、大阪ホームサービス株式会社・穴見 孔治、株式会社 MYTH HOLDINGS、フォレスト社会保険労務士事務所、愛すみれケアプランセンター、一般財団法人 篠原欣子記念財団、大阪若獅子ライオンズクラブ、SHIONOGI 社会貢献支援会、認定NPO法人 おてらおやつクラブ、日証協こどもサポート証券ネット、日本キリスト教団天満教会（北区社協善意銀行）、カタギ食品株式会社、大阪家庭少年友の会、社会福祉法人 大阪府共同募金会、吹田市社会福祉協議会善意銀行、大阪みおつくしライオンズクラブ、大阪西ライオンズクラブ、公益財団法人 きずな育英基金、フロンティア勉強会、公益財団法人 每日新聞大阪社会事業団、豊生肥糧株式会社、国際ソロプロチミスト大阪 - 梅田、株式会社カプコン

(他35名)